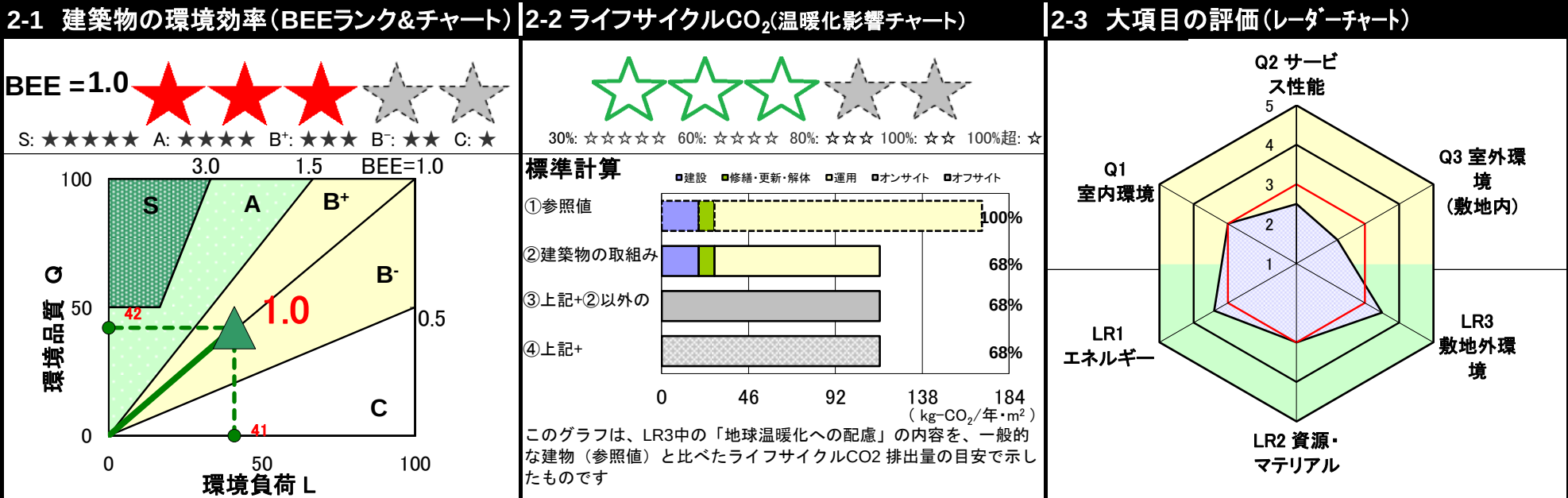


CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)国府本町M新築工事	階数		
建設地	熊本県熊本市中央区国府本町142-14	構造		
用途地域	第2種中高層住居専用地域	平均居住人員		
気候区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日		
敷地面積	1,213 m ²	作成者	蔵原 佳代子	
建築面積	285 m ²	確認日		
延床面積	2,821 m ²	確認者		
			吉永 拓郎	



CASBEE-建築(新築)2014年版
(仮称)国府本町M新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
			評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質							2.6	
Q1 室内環境				0.40		-	3.0	
1 音環境			2.0	0.15	3.2	1.00	3.1	
1.1 騒音	(共用部)ホール:50dB(A)(住居部)住戸:40dB(A)		3.0	0.50	4.0	0.50		
1.2 遮音			1.0	0.50	2.4	0.50		
1.2.1 開口部遮音性能			1.0	1.00	1.0	0.30		
1.2.2 界壁遮音性能			-	-	3.0	0.30		
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	3.0	0.20		
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音			-	-	-	-		
2 温熱環境			1.0	0.35	2.6	1.00	2.4	
2.1 室温制御			1.0	0.50	3.0	0.50		
2.1.1 室温			1.0	0.63	3.0	0.63		
2.1.2 外皮性能			1.0	0.38	3.0	0.38		
2.1.3 ゾーン別制御性			-	-	-	-		
2.2 湿度制御			1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式			1.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境			3.0	0.25	3.2	1.00	3.1	
3.1 昼光利用			4.2	0.30	3.4	0.50		
3.1.1 昼光率	(共用部)ホール:7.8%(住居部)LDK:2.2%		5.0	0.60	5.0	0.50		
3.1.2 方位別開口			-	-	1.0	0.30		
3.1.3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策			2.0	0.30	3.0	0.50		
3.2.1 昼光制御			2.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度			3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御			3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境			3.6	0.25	3.7	1.00	3.7	
4.1 発生源対策			4.0	0.60	4.0	0.63		
4.1.1 化学汚染物質	(共用部)(住居部)F☆☆☆☆の採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.1.2 アスベスト対策			-	-	-	-		
4.2 換気			3.0	0.40	3.3	0.38		
4.2.1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.2.2 自然換気性能	(住居部)0.145>0.125(1/8以上)		-	-	4.0	0.33		
4.2.3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理			-	-	-	-		
4.3.1 CO ₂ の監視			-	-	-	-		
4.3.2 喫煙の制御			-	-	-	-		
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	2.5	
1 機能性			2.4	0.40	2.6	1.00	2.5	
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60		
1.1.1 広さ・収納性			-	-	-	-		
1.1.2 高度情報通信設備対応			-	-	3.0	1.00		
1.1.3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	2.0	0.40		
1.2.1 広さ感・景観			-	-	3.0	0.50		
1.2.2 リフレッシュスペース			-	-	-	-		
1.2.3 内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理			3.0	0.30	-	-		
1.3.1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-		
1.3.2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-		
1.3.3 衛生管理業務			-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震			3.0	0.50	-	-		
2.1.1 耐震性			3.0	0.80	-	-		
2.1.2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30	-	-		
2.2.1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	-		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	Bを使用(給水・排水・給湯)		5.0	0.20	-	-		
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20	-	-		

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.6	0.20	-	-			
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-			
	3	電気設備		2.0	0.20	-	-			
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-			
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-			
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-			
3 対応性・更新性				2.6	0.30	2.2	1.00	2.2		
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり		-	-	1.4	0.50			
		2	空間の形状・自由さ		-	-	1.0	0.60		
					-	-	2.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50			
	3.3 設備の更新性			2.6	1.00	-	-			
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			
		2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
		3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
		4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
		5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-		
		6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.2	
	1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0	
	2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5		
3.1	地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-			
	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.3		
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.4		
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20	-	-	3.0		
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 1.01	3.9	0.50	-	-	3.9		
集合住宅以外の評価(3a.3b)				3.0	-	-	-			
集合住宅の評価(3c)			LED照明採用	3.9	1.00	-	-			
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価	4.1	モニタリング		-	-	-	-			
		4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
					-	-	-	-		
	集合住宅の評価	4.1	モニタリング		3.0	1.00	-	-		
			4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
						3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.0		
1 水資源保護				2.2	0.20	-	-	2.2		
1.1 節水	1	雨水利用システム導入の有無		1.0	0.40	-	-			
		2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.60	-	-		
					3.0	1.00	-	-		
					-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.60	-	-	3.1		
2.1 材料使用量の削減	2	既存建築躯体等の継続使用		2.0	0.10	-	-			
		躯体材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.20	-	-			
		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	パーティクルボード	3.0	0.20	-	-			
		持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.20	-	-			
		部材の再利用可能性向上への取組み	壁・天井:木下地	3.0	0.10	-	-			
				4.0	0.20	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7		
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3	フロン・ハロンの回避		3.0	0.30	-	-			
		1	消火剤		4.0	0.70	-	-		
			発泡剤(断熱材等)	硬質ウレタンフォームA種	-	-	-	-		
			2	冷媒		5.0	0.50	-	-	
						3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.5		
1 地球温暖化への配慮			リサイクル材の使用	4.2	0.33	-	-	4.2		
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0		
2.1 大気汚染防止	2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.25	-	-			
		2.3 地域インフラへの負荷抑制	3	雨水排水負荷低減		3.0	0.50	-	-	
				汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
				交通負荷抑制		-	-	-	-	
		4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
					3.0	0.33	-	-		
					3.0	0.33	-	-		
					3.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33	-	-	3.4		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3	騒音		-	-	-	-			
		振動		-	-	-	-			
		悪臭		-	-	-	-			
		3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制	3	風害の抑制		3.0	0.67	-	-	
				砂塵の抑制		3.0	0.70	-	-	
				日照障害の抑制		1.0	-	-	-	
3.3 光害の抑制	3	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.30	-	-			
		・光害がガイドラインチェックリスト過半を満たす・広告照明なし	4	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		4.4	0.33	-	-	
						5.0	0.70	-	-	
						3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

景観に配慮した外観デザインとした。また住戸では2タイプ（1LDK・2LDK）計画し、入居者の快適性を重視した設計とした。

Q1 室内環境

- ・F☆☆☆☆の採用により汚染物質の最小化に努める。

Q2 サービス性能

- ・更新必要間隔の長い給排水配管を採用し耐久性に努めた。
- ・外壁の仕上げでは、耐用年数の長いタイル張とした。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・周辺景観に配慮した、外観デザインとした。

LR1 エネルギー

- ・各住戸の断熱性能を高めた。
- ・LED照明を室内外に採用した。また共用部の照明で制御機能を設定し省エネルギーに努めた。

LR2 資源・マテリアル

- ・躯体と仕上材が容易に分別可能となっている。（木下地）

LR3 敷地外環境

- ・駐車場と駐輪場を敷地内に設け、周辺の交通負荷の抑制に努めた。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)国府本町M新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		71
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				78.9	0.40	31.56
Q1-2.1.2	外皮性能	2.9	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.9	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				70.7	0.20	14.14
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数